



別院宗祖降誕会協賛として総会所でおこなわれた兵庫大学茶道部の学生による抹茶の接待

く別院だよりく

モダン寺新聞

第26号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院
〒650-0011
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-341-5949

一口法話「サイレン」

先日、新聞に目を通していますと、消防署の隣に引越しをされた女性の投稿記事に目がとまりました。

引越しされて間がないときは、消防車や救急車のサイレンの音がうるさくて仕方ない！と思われていたそうです。

私は地元の消防団に所属しており、管内で火災が発生すればサイレンを鳴らし、赤色等を回したポンプ車で緊急出動をいたします。

ある時の火災での出動の際、小学校の下校時間と重なり、下校中の児童がサイレンの音に耳を塞ぐ姿を目にしました。車内にいる私たちでさえサイレンの音が大きいなあと感じるくらいですから、外を歩いている児童なら更に大きく聞こえたことでしょう。

私たちの日常生活に於いて、日夜時間を問わずけたたましく鳴り響くサイレンの音は、聞こえの良いものではありません。

しかし、引越しをされた方の記事を読み続けますと、ある日、家族の方が具合が悪くなり救急車を呼ばれたそうです。そのお陰で大事には至らず済んだとのことでした。

その出来事があつてからは煩わしいと思っていたサイレンも、私たちを守ってくれる暖かい音に感じるようになった。とありました。

私が小さい頃、祖父や祖母に「本堂にお参りしにいくよ」と声をかけられ、嫌々ながら本堂に正座したことを思い出します。祖父や祖母が称えるお経やお念仏を聞くと「またお経か」とか、「面倒くさいなあ」などと思ったことが幾度と無くありました。

しかし、よくよく味わってみれば、私が煩わしいと思っていたお念仏も、救急車や消防車のサイレンと同じで、日夜を問わずこの私のために、救いの手を伸ばしてくださった仏様の「おまえを救うぞ」「おまえを仏にするぞ」というお声であるのだとお示しをくださっています。

正信偈には「摂取心光常照護」すくい取って捨てないぞという仏様のお心は、常に私を照らしていただくさるものである。とあります。そのお心が、常にこの私にも間違いなく届いているのだと、この女性の記事を通して面白いさせていただいたことであります。

その女性は最後にこう書かれていました。
「いまでは緊急出動していく車両からのサイレンに私は感謝しています」と。

神姫組 常德寺 森川 晋乗

別院で宗祖降誕会

去る五月十八日（日）、見事なまでの五月晴れの中、親鸞聖人のご誕生をお祝いする宗祖降誕会が、神戸別院で多数の参拝をいただき厳修された。なお、京都の御本山（西本願寺）では、例年五月二十一日に営まれます。

法要二日前の五月十六日（金）には別院仏教婦人会のお世話で、お供物となる紅白餅を、別院仏教壮年会の方々が中心に、合計十四

日もついて頂きました。別院職員も交代で手伝わせていただき、職員の中には餅つきの後、手が震えて字が書きにくかった者も……。最後にはつきたてのヨモギ餅のご馳走まで頂きました。

法要当日は、午後一時より別院前庭にある親鸞聖人の銅像前において、松村彰道輪番調声の下、六名の讃嘆衆により讃仏偈がお勤めされ、参拝者の方々もお焼香をさ



別院3階の本堂で満堂の参詣者と正信偈をお勤めする

れました。

引き続き午後一時半から三階の本堂において法要が執り行われました。行事鐘、諸僧入堂の後、兵庫大学茶道部、仏教婦人会、仏教壮年会の方々によって、伝供がおこなわれ、紅白餅が供えられ、輪番の導師で本堂満堂の参拝者と共に正信念仏偈作法第二種のお勤めが厳かに勤められました。

法要後に輪番は挨拶の中で、「聖人が八六歳で著された正像末和讃の中、最後の和讃である、恩徳讃の心を思うとき。

お聖人は、阿弥陀さまのお慈悲に對し、身を粉にしてでも報ずべき程のご恩であり、また、法然さまをはじめ祖師方のご恩に對しても、骨を砕いてでも感謝する程のものであるとお慶びになりました。そのお慶びを、今降誕会を勤める一人一人の慶びとしていただきたいと念願しております。」と述べた。

次に、本願寺派布教師・大阪教区島下組千里寺ご住職、武田達城先生より「現生正定聚〜今の救い〜」という講題で、ご法話を頂きました。

ご法話の中で武田先生は、身近な生活の中からの例話を元に、私の心が変わる事や、私の心持ちをかえる事が信心を頂く事ではない。日々の中でお念仏を申し、仏の願いに気づき生かされる、その名号成就が

信心です……と。

また、昨年より兵庫大学茶道部の協賛を頂き、お勤めの前とご法話の休憩時間に、お茶席が本堂と同じ三階の総会所に設けられ、着物姿に緋色の袱紗も鮮やかな学生さん達による、裏千家流のお手前で、参拝者にお抹茶と和菓子が振る舞われました。

お同行のなかには「学生さんのお点前は、明るく初々しくてありがたかったです」と話され別院を後にする方もおられました。



別院前庭の親鸞聖人銅像前での法要

別院行事のお誘い

神戸別院仏教婦人会

『子の躰 まず親たちの姿から』

この句は仏教婦人会総連盟機関誌「めぐみ」2000号に掲載された、奈良教区十市組妙光寺伝道揭示板の法語です。

近年特に親と子の関係が危ういとの声が聞かれる世相ですが、この句に挙げられているように子ども達の手本となるべき大人の姿が乱れてきているような気がしてなりません。

仏教婦人会は、女性としてまた母親として子ども達に見つめ続けられる私たちが、まず自分がどんな問題を抱えているのか、何に気づくべきなのかを問いかけていくときに、同じ立場の仲間と心をつなげていくという集まりです。

「お寺のことはまだまだ早い」こう思ってみても、本当はその時が一番必要な時期なのかもしれません。

仏事のことだけではなく、私たちの生活全般の中での疑問をみんなで話し合い、より良い社会に向かって力強く歩みを進められるよう、会員一同学びあっています。

法座だけでなくお餅つきや会員旅行などもございます。一度、仏

教婦人会の集まりにお越しください、毎月七日の午後一時半から仏教常例法座を実施しております。
(※一月・八月・十二月は休座)

担当／稲岡

神戸別院仏教壮年会

毎月十六日は朝十時から二時間ほど別院仏教壮年会で勉強会を開催し、午後からは別院常例法座の聞法を重ねております。浄土真宗の教えを通して、様々な学びを深めております。

この会の目的は「お互いに聞法を重ねて信仰を深め、会員相互の親睦を図りながらみりのりを広めること」であります。

仏教・真宗の教えに関心をお持ち



降誕会の餅つき、仏社会員と共に職員も一白「がんばるぞ!」



神戸ポートアイランドの遠足から「今日は楽しかったぞ! イーイー」

の方、行事や法要に参加してみたい方、門信徒同士お互いの仲を深めていきたいとお考えの方、研修会・研修旅行・親睦会などを通じて共に学んでいきましょう。

皆様のご参加お待ちしております。

担当／山月

モダン寺土曜子ども会

お寺で過ごす時間の中で、色々なお友達と一緒にいのちの大切さを学び、「自分」を見つめよう。

月に一度の子ども会では、アミダさまについて学んだり、遠足に行ったり、料理をしたりと色々な行事があります。別院のご門徒さん以外も大歓迎で、どなたでも参加できますので、ご近所・ご親戚の方にお声かけの上ご参加下さい。

担当／池田・山月

図書紹介

「遊雲さん 父さん」

— 小児がんを生きた

わが子との対話—

有国智光著 1, 260円

小児がんで十五歳の息子・遊雲を亡くした父親が、「死」をそして「生」を問うた手記。「何があっても大丈夫」父と子で交わされたこの言葉が、二人を支え続けた。

小児がんと三年間向き合った有国遊雲さんの最期の言葉は、朝日新聞・読売新聞・中国新聞などで大きく紹介されました。(※別院二階では本願寺書籍や他の仏書も頒布しています)

徒然日記

生きている人の誕生日をお祝いすることはあっても、亡くなられた方の誕生日をお祝いのする、ということとはあまり聞いたことがありません。◆先日の降誕会では本堂満堂のご門徒さんと共に、親鸞聖人の八百三十五回目の誕生日をお祝いすることができました◆お生まれになられて八百年以上経つてなお、そのお誕生をお祝いされる…そこに込められた意味、願いを考えると、言葉にならない思いを抱くのであります◆お下がりのお餅を頂きながら、聖人の願われたもの、そして私が願っていくべきものは何であるのか、と味あわせていただいたのであります。

永代経・納骨永代経のご案内

ご先祖の想いがお寺を護持し、

み教えを永代に伝える

永代経とは、亡くなられた方などを縁にして財物を進納することによって、お経が読経されることをいいます。

浄土真宗のお寺は特定の方々によって護持されるのではなく、多くの門信徒によって支えられています。門信徒の方々が、故人への篤い想いを「永代経懇志」という形に示すことによって、聞法の道場としてのお寺は護持され、そこで読まれるお経は永く人々の心のよりどころとなり、みちびきの光となつて人々を救い続けています。

こうして、永代経懇志はお寺を護持し、永代にわたつてみ教えを伝えていくという尊い実を結んでいくのです。

先祖のよろこびが

あなたのよろこびに

このように、永代経懇志によって教えを伝えるお寺を護持し、み教えにあわせていただくということとは、亡くなられた方の真実の願いを実現することでもあります。浄土へ生まれて清らかな悟りの身となります方は、「お寺が永代に続きますように、そしてそこで説かれるみ教えをみんなが聞いてく

れるように」願っておられます。

その意味で永代経進納を機縁として、あなたが法を聞き、如来さまのお救いに気づかれるならば、

それはあなたの大きなよろこびであり、またお亡くなりになられた方のおよろこびともなるでしょう。

ご不明な点やご相談はお気軽に
ご連絡ください。

(永代経・納骨永代経担当)

萩嶺貴恒



別院五階に安置されている「永代納骨仏壇」での開闢法要

新入職員紹介



山月 融心
(さんげつゆうしん)

滋賀県出身です。お参りで見かけたら気軽に声をかけて下さい。よろしくお願いします。



出口 悠子
(でぐちゆうこ)

大阪出身です。これから一生懸命頑張つて行きますのでよろしくお願い致します。

編集後記

先日お参り先で、お勤め中に蚊に刺されてしまいました◆痒い思いをしました。夏がすぐそこまで近づいて来ているぞ」とのお知らせかと思うと、憎らしいはずの蚊も、微笑ましいものに思えました◆降誕会も終わり、夏が駆け足で近づいてきます。モダン寺新聞編集部も、季節の移ろいの早さに背中を押されながら記事を書いております◆六月には永代経、八月には暁天講座があります。次号のモダン寺新聞も宜しくお願致します。

(事務局/YS)